



地番一一一 村丘竜野長
男經田保久 兼輯編
會年青丘龍 所行發代
雄貞平下 者表代
七三二町田飯縣野長
所刷印社興發 所刷印
六三二町田飯縣野長
雄義下松 人刷印

景氣再現に

備へよ!!

世界の不況を克服しやうとする世界経済會議は何等國際的の共調を見出すところなくむしる悲觀的經過にあるに拘らず景氣は所謂インフレーションの波を寄せては待望の千圓の波を起し、今なほ好調の歩を進めつつある。所謂アメリカのインフレーションの波が利いて殊にそれが生糸に表れたため、一早く蠶糸郷はそのインフレーションの影響におかれて来たといふべきであらう。尤もこの景氣の將來に對し何人も確固たる指標を興へるものがないから一般人心は貰つた物を取り戻されはしないかと云ふ様な不安さであるが對外インフレーションが漸く國內インフレーションに波及しつゝあるから生糸と云ふものは物價は高騰して行くことは必定であり、高物價政策による即ちインフレーションは正に出現するものと云はねばならぬ。高物價政策の是非は別として、過去十年不況に不況借金で、過去十年不況に不況借金を頼む雨請ひの如く景氣再現を祈つて来た民衆はその景氣出現の聲のみにても愁眉を開くのも尤もな事である。

神の起因

天地の事 (一)

小林 安太郎

千萬物の大綱本綱は神に坐りて人とは知らずや。是は本居大入を玉鋒百首に於て道の歌を百數十首詠出で嚴の言霊と名付たる中の一首で天地も日月も何もかも悉皆神が大綱本綱となり主宰となつて造化し給ふことなるに其の神を深く敬ひ奉る人の少きは何事ぞ、是は定て神は天地萬物の大綱本綱と云ふ事を知らぬからのことであらうと歎息の余り詠れた歌である。さて神とは如何なるものか何なる語であるぞと其の源に遡つて考へて見るに「カクリムスビ」と云ふ語をふくめたもので其のわけはカクリの力を略けたりとなり其の力は花の香幽の力などと同じで肉眼に力を見えぬ物を申す語又ムスビのムスを約すればととなり、すびはシとなり何かを約してもムシとなりま

水力作矢

事件に關して

下田 隆 一

横暴なる資本家の魔の手は、我々を蹂躙せしめてゐる。我々は、嘗て、かゝる事の多くの例を、涙のうちに忍んだ。だが然し我々は忍従のうちには尙生活を、生活權を奪

青年會處女會

諸兄姉へ

過る三月下旬諸兄姉の御賛同を得教育部の骨折で、在瀛及在營在國諸兵士へ發送致しました慰問品の禮狀が諸氏より下さいましたから紙上より會員諸兄姉へ御報告申上ります。(庶務部)

現代農民と篤農家

高島 和男

日毎日々一暖萌え上る草木百花千香の野邊に立ちて憐れなる農家と幸に恵まれたる業を營む篤農家と云ふべき家庭とを簡單ながら私見より比較して見る。 糸價の暴落についで米穀の續落は農民を立ち行けない迄に苦境のどん底に突落した。新潟縣を始め全國に相繼いで起つた農民騷動は衆人の知る所であるが、純小作人でない迄も現代峡谷の農民すら云ふ迄もなく此の生活苦の内には追これれも何ものかによつて救はれんともがき苦しんで居る。

原稿募集

農園から、家庭から、職場から若人の熱烈なる叫びを休職談、農事記事發表を學藝諸事、論議等感じ一切を綴り、木影からどしどし送られたし、利用されたし次號縮切し 七月十五日宛先 青年會處女會編輯部員へ

女訓豫定表

Table with 2 columns: Date and Activity. Includes items like '四月 總會並研究會 十七日', '五月 普通訓練 一日', etc.

印刷所變更

第五號まで印刷を依頼してゐた伊那印刷社が都合上印刷を中止したため印刷所變更のやむなきに致し、本號から猶興社印刷所へ依頼することに致しました。第五號は發行の準備なりつゝ印刷所の印刷中止のため遂に發行するを得ずお詫申します。 本號から印刷所の變更と共に活字、字詰等全然一新されまして、諸設備完備の猶興社で今號からしつかりしたものを印刷出来ませう故御期待下さい。 編集部

小麥の販賣統制について

竜丘村農會

小麥の増殖計劃に就ては、食料自給のモットーの下に農林省始め國を擧げて之が増殖に努力した結果第一年度としては相當の成績を納める事を得た。

而して日本に於ける日東、日新、東亞の三大製粉會社の年内製粉能力は二、五五〇萬俵、小麥の産額は僅かに一、六二〇萬俵昭和八年度の豫想收穫高は一、九四四萬俵で未だ其の三大會社に於ける需要の半を生産するに過ぎない状態である。

然るに現今迄内地小麥の價格の低廉であつたのは多く大製粉會社の商業政策に依るもので内地小麥の出來秋に於ては最も低廉な價格を示して居る、之を月別に示すと

一月	七圓五	七圓九	〇圓六
二月	七圓七	七圓三	〇圓三
三月	七圓五	七圓五	〇圓四

内地 小麥 較差

幹部候補生制度改正に就いて

昭和八年四月勅令第七十一號及び陸軍省令第十四號をもつて改正せられたる幹部候補生制度は從來實施せられておたつたのは大分その趣を異にしてゐる、即ち從來は配屬將校を附したる學校を卒業しその配屬將校の教練檢定に合格したるものが一定の金額を納付すれば在郷の將校となることが出来たが新制度によると資格者の志願者中より候補生を採用し三月後上等兵に進級すると同時に嚴密なる考査の成績によつて甲乙二種に分類し甲種はさらに二月を経過して軍曹に昇進見習士官として將來將校に任官するやうにな

時的出廻過剰の現象を呈せんか、眞に憂ふべき問題である而して之が販賣統制を圍り市場出廻を適宜調節し最も有利に處分する事は又最も重要な事である。茲において全國的に産業組合及び農會によりこれが統制をつけんとするののである。

本郡に於ては郡農會及全國米穀販賣購買聯合會、長野小麥共同販賣の要項及注意

一、調製及包装に就て
1. 品種を混合せざることを
2. 乾燥を良くすること
3. 調製を丁寧に行ふこと
4. 調製を貯蔵販賣上其の影響からざるを以て丁寧に行ひ特に唐箕選は充分に行ひ黒穂被害粒は嚴重に除去すること

二、検査に就て
1. 調製を貯蔵販賣上其の影響からざるを以て丁寧に行ひ特に唐箕選は充分に行ひ黒穂被害粒は嚴重に除去すること

幹部候補生たるらんこと

一、志願者資格の概要
(一)配屬將校を附したる學校(研究科選科等の別科を除く)を卒業し、専門學校以上在在りては本人最終學校の最終學年の、當該學校の配屬將校の教練檢定に合格したる者

二、志願者檢査までにおける手續
(一)幹部候補生たるらんこと

三、志願者檢査の結果
(一)徵兵身體檢査の結果甲種又は第一種に合格したる者(輕重兵務兵、補助看護兵、第二種補充兵に徵集せらるべき見込者を除く)は聯隊區司令官の指示により本人の檢査終了後一ヶ月以内(最終徵募區の受檢者

幹部候補生志願書
1. 幹部候補生志願書
2. 學校教練檢定の合格にかんする當該學校配屬將校の證明書
3. 本籍地市町村長の證明書
4. 技術に従事すべき各兵科又は經理部、衛生部、獸醫部の候補生志願者は前項の書類の外資格にかんする證明書

五、檢査手續
一、檢査申請 鶏卵檢査は書面により申請す
二、檢査執行 申請のありたる場合檢査員は日割を定めて出張檢査をする、但し一檢査場の檢査数は二十包以上のこと
三、檢査員再檢査を要求したるとき之を拒みたるもの
四、農産物(鶏卵)檢査規則に違反する農産物を運送し又は運送の目的を以て之を取扱ひたるもの

農産物並に鶏卵の縣營検査に就て

長野縣農産物檢査所
飯田支所 龍丘出張所
龍丘村農會

昭和八年五月十七日付長野縣令第二十六號を以て本縣農産物檢査規則第二十七號を以て本縣鶏卵檢査規則が公布されまじか穀物檢査規則と大分異つた所があり、御了解を願ひ度と思ひます

一、實施期日 農産物檢査は昭和八年六月一日より實施す
鶏卵檢査は同年七月一日より

夏の日營より

南滿洲安東獨立守備隊
中平茂君より

暫く御無沙汰致しましたお變りも御座居りませぬか、私も幸に元氣です御安心下さい。早くから村民の方々へ熱河出動狀況を書いて送らうと思つてゐたが十九日より第三次討伐が開始されたため日記のまゝで送ります。時報に餘白があつたらぬのし下目、では亦書かう目下目に廻るやうな忙しさを御書けないが、さよなら御身御大切に、さよなら

小林和三君より

雙及劍

アメリカのインフレいよいよ國內インフレへ、さあ来るぞとぞらういふ景氣が、下づみの忍従、報ゆられて絲價正に千餘圓。十圓時代を夢みる慾深もあり。

何年ぶりかで類のしはがのび何年ぶりかで空巾着のしはがのび。

のびた巾着めがけて債鬼百行無盡も立ちそう。春蠶だけで借金分へは廻りかね。

大いに取つて大いに出すがインフレの原理。

入つたらさいがアびた一文も離さぬは頭迷の親父。

息子に小使もやれ、女業にはモーカ一枚宛もくばれるべし。

七月一日農休。足をのびし腰を延して休め。浮れて藝妓なんか買つたら青年衆、本紙が怒るぞ。

負債整理合法、七月十日より實施。村では準備が出来てゐますか。

受渡(販賣又は寄託) 希望檢査 一小作料として受渡する玄米及穀の檢査(行地)一施行地域外の玄米及穀の生産檢査 一、大麥 手數料

種目	等級	一包裝の移出	生産入庫	移出生産入庫	檢査手數料
玄米	三、四、五等外(斗)	二重俵	一重俵	八錢	四錢
精米	三、四、五等外(斗)	二重俵	一重俵	八錢	四錢
大麥	三、四、五等外(斗)	一重俵	一重俵	八錢	四錢
小麥	三、四、五等外(斗)	一重俵	一重俵	八錢	四錢
大豆	三、四、五等外(斗)	一重俵	一重俵	八錢	四錢
小豆	三、四、五等外(斗)	一重俵	一重俵	八錢	四錢
蕎麥	三、四、五等外(斗)	一重俵	一重俵	八錢	四錢
ゴボウ	三、四、五等外(斗)	一重俵	一重俵	八錢	四錢
蘋果	三、四、五等外(斗)	一重俵	一重俵	八錢	四錢
竹、梅、花	三、四、五等外(斗)	一重俵	一重俵	八錢	四錢
蘋果	三、四、五等外(斗)	一重俵	一重俵	八錢	四錢
竹、梅、花	三、四、五等外(斗)	一重俵	一重俵	八錢	四錢

四、檢査員本則に違反の事實ありと認め農産物の保管運搬停止又は關係資料の提供を命じた場合之れを拒みたるもの

五、檢査を受けるに當り又は檢査を免れる爲不正の行爲をなしたるもの

六、不正の目的を以て檢査済の農産物に濕氣を施し又は生産年度、品種若しくは品位の異りたるものを混入し又は正味量を減じたるもの

七、故無く檢査済農産物(鶏卵)の檢査等級證印檢査證印若しくは記號印を抹消し又は封を破棄したるもの

八、故無く檢査済農産物(鶏卵)を除去し又は附著、若しくは變造したるもの

港町時又の

水電 區民大會

對策 區民大會

誓つて矢作に交渉開始

港町時又では水電對策區民大會を五月四日夜長石寺に於て壯年團主催のもとに開催した。當夜は區民は勿論青年會處女會婦人會もこれに加り下平三七氏を始め八氏が「吾等が港町の生命線を守りて」と次々愛郷の叫びをあげ満場一致の宣言決議を可決し下平三七氏他十九名の實行委員をあげて矢作水力會社にたいし本格的交渉を始めることを一決し一時散會した。

宣言

地理的には天下の奇勝天龍峽の咽喉をなし商業的には下流沿岸數ヶ村の生命の鍵を握れる吾等の港町は港を有する想ふに天龍峽をして世界的景勝地の名譽を獲得せしめたる背後には血と涙とに彩色せられた吾が時又港の歴史が蘇られるであらう。吾等吾々區民の先々代諸賢の貴き犠牲と巨額な投資によりて得たる此歴史の過去を保有する時又港の重要性はまさに風前の燈化せんとしつゝあるのである。斯く吾等の糧を奪ひ斯く吾等の港を陰慘なる形體化せんとする強大なる魔力？それは矢作水電株式會社である。事一言の辯明を許さぬであらう、舟航は杜絶し遊覧船はその姿を大資本の影に没するを強要するにいたり實に時又港の重大なる死活問題にして將亦その將來は……思ひ半にすぎらざるであらう、吾人はこゝにいたりて戦慄を覚ゆるといへども徒らに逡巡うちよすべきでない、死を賭してなほ生活権を死守しなくてはならぬ方法や如何に、吾等は想ふ只々積極的民衆運動と時又區民の合法的戦術とによつてのみ戦ひ取り得るのである。故に吾人は如何なる障害を

れ已に區民の更らに一層の實踐的行動に移るべき秋である、この秋に當りこゝに區民大會を再開して最後の手段への一致結束の強固ならむことを期す。右宣言す

決 議

時又區民は一致結束以つて初期の目的を貫徹せんことを期す

昭和八年五月四日
龍丘村時又區民大會

矢作交渉代表歸村

良き結果を約し

別項水電對策區民大會より即日全區民の調印を取つての陳情書を時又區民及び村代表として名古屋矢作本社にたづ歸村した

成績愈々擧る

妊婦無料診断

爪さりと兩氏

青年會役員改選

本村においては本年五月から月々妊婦無料診断所を開設してゐるがその成績大いに利すべきものがある、ますます用されるやう特に村當局は力を入れてゐる左に日時場所を示せば

一、開設日：毎月第二土曜
二、時間：五月より十月までは午前八時より同十一時まで、十一月より翌四月までは午後一時より同四時迄
三、場所：役場第三會議室
四、産婆：大野つる、橋

新鮮な蔬菜の山!!

竜丘農會市場開設

例により本會において左記により青物市場を開設し村内蔬菜の需給の圓滑をはかりあはせて村内生産蔬菜の販路を擴張せんとす、左記要項参照の上充分利用相成度

記

一、開設の日時及び場所は自七月一日至九月末日毎週月水金の三日間(日割變更の場合其都度通知す)受付毎日午後一時より二時まで販賣は毎日午後二時よ

受付を絶つることあれば注意せらるべし

2、收穫調整保管等に注意するこゝに注意せらるべし

3、出荷する蔬菜は商品なれば新鮮にして体裁良き状態に出荷することが必要である、今二、三の注意事項を述べれば

イ、收穫後出荷當日早朝行ひ冷所に少量の露をまきて貯藏し活々とした状態を保たしむること

ロ、出荷すべき蔬菜は良く洗滌し土砂を落し清潔になしたる後貯藏出荷すること

ハ、洗ひたてのもの露のきれたる後出荷すること

ニ、馬鈴薯、ラッキョウ、ネギ等は洗はずによく砂を落して出荷すること

ホ、ネギ、葉菜類、根菜類等小束にするものは束の大きさをそろへ体裁良く束ること

ヘ、青物にしてその出盛期等において出荷甚だ多く販賣に困難なときは一人當の出荷量を制限することあるべきにつき適當なる貯藏及加工方法を講ぜられたし

ヘ、適當なる農産加工品の出荷を希望す(これが出荷には前以て本會に照會相成たし)

五、時期により出荷その他注意を發することあればこれが勵行相成たし

盛 夏 納 涼

納涼の季節時又港の月見草は咲きはじめ農繁期中の疲勞慰安に―と附近の人々で賑を呈してゐる、因に商工會では點燈し一層の美觀を呈してゐる

時又港 見月草

馱科驛前の 月見草

一日の勞働に疲れ夕涼みには

愛らしき花月見草は何といつても疲れを薄らぐクインだ勢ひよくのび澤山な花もついた

竜丘圖書館

前年期報告

五月五日端午の節句當日をもつて大休ながら八年度前年期制理を行ひ左記のごとき近年に比類なき好結果を上げ

▲貸出状況報告

団体貸出五回(月一回)二九二冊、總冊數にたいする比率一月四・三%、個人貸出四三回(月八回及び祭日)六九五冊、總冊數にたいする比率三一・五%平均四五%、貸出人員男三六一人、女九四人合計四五九人

▲部内別内訳状況(人員略す)

部内	団体貸	個人貸	平均貸
別出	冊數	冊數	冊數
文語	一五九	五〇五	八六
教修	二四	六二	二七
理工	二九	六五	七五
法經	三六	五〇	四〇
地歴	一三	四〇	一九
産業	二〇	三七	七五
美術	九	八	二二
美藝	二	五	二二
合計	二九二	六九五	四五

▲部内別内訳状況(人員略す)

帝國の國防
散華抄
一休珍話集
現代藝術の展望
佐竹蓬平
エジプトの藝術
煙れる田園
貧しき子たち
野良に戦ふ
文學概論
新語新語
國文讀本(四)
女子讀本(五)
先哲遺言
リンカーン
橋本左内の研究

猪俣津南雄
秦 眞次
正木不如丘
岡本かの子
和 高
坂垣慶穂
岩崎清美
一氏義良
吉田絃二郎
寺田彌吉
中村孝助
川口 活
山川峰太郎
信濃教育會

新購入圖書報告

書籍名 著作者

青空の下の原つば 小川健作

は部落の全体であり村は村全体であり國は國全体の幸福を祈るべきだ、産業組合の理想は共存同業相互扶助である村單位の組合なれば村全体の幸福が理想である、今龍丘製絲組合をみるに村内の工女を極端なる犠牲を斷行し他村から随分多數の工女を入れてゐるのと聞く、一つの工場に集つて能率をあげるには最もすぐれたる粒選りのもののみを結果が成績良好と行くのだ、けれどもそれは營利を目的としたる營利社會のいたすところである、村自治の上には村再生の元に生れたる産業組合は少し目的が違ふとおもふ、少しく當事者

製糸組合に與ふ

社會の動きは總べて辨證法的なることは誰もが知る事實だ、その方向は一部分のもの、幸福なる社會より絶對多數なるもの、幸福なる社會である、部落

反響欄

日常社會生活の中に矛盾や、不正や、痛憤すべき記事、その他、短文、紙上篤名隨意、載否は一任を乞ふ。

夜補開設論

工氏等よ君等は何故に夜間補習學校開設をさげぶのだ、私等の目がひがんでゐるかげんか君等の原稿はあまりに賣名めではなからうか

○

亦男らしくはないかともおもはれる、過日桐林青處合同研究会に君等に間接に答辯を迫りしにその場では無口でて時報の相手なしのところまで手を悪く言ひほうだい

者に一言

やはり君等は賢いのだ、賢い君等の論ずる事故良からうが果して夜間の仕事だ君等のような女々しい精神の君等が論ずるかとおもふとやはり夜補もなりたないだらう

○

工氏等よ、理想はよいかも知らぬが實現がともなはないことは賢い君等故にも承知だらう、止めさせんにつまらぬこととは止めさせん

○

紙上篤名は自由なれども今後篤名なき稿は載録しません(一係り)

結婚生活

市川源三
廣瀬 豊
加藤一夫
河崎なつ
農業學校民會
河崎なつ

吉田松陰の研究
………
農本主義
………
新女性讀本
………
農村を更生する人々
………
何がテクノクラシーか
………
世界列強戰備比較論
………
食用作物各論
………
生糸市場論
………
上策改良の理論と實際
………
女子養蠶教科書
………
女子養蠶教科書
………
植物病理學
………
産兒調節論
………
日本老農傳
………
日連の人生觀
………
農民心理の研究
………
萬象遺稿
………
日本地理大系四冊
………
信濃の國碑と傳説
………

春蠶供繭高

龍丘村の春蠶成績は飼育中氣候良好各位の不斷の努力により成績良く生糸組合への供繭高は昨年比して二割餘の増加を示してゐるその供繭高は白：五千六百三十八貫七十黄：三萬四千六百八十三貫二十匁

御料理

富 士 松
電話十五番

雜誌・會報・一般印刷

信濃國民新聞社印刷部へ

夜補開設論

工氏等よ君等は何故に夜間補習學校開設をさげぶのだ、私等の目がひがんでゐるかげんか君等の原稿はあまりに賣名めではなからうか

○

亦男らしくはないかともおもはれる、過日桐林青處合同研究会に君等に間接に答辯を迫りしにその場では無口でて時報の相手なしのところまで手を悪く言ひほうだい

者に一言

やはり君等は賢いのだ、賢い君等の論ずる事故良からうが果して夜間の仕事だ君等のような女々しい精神の君等が論ずるかとおもふとやはり夜補もなりたないだらう

○

工氏等よ、理想はよいかも知らぬが實現がともなはないことは賢い君等故にも承知だらう、止めさせんにつまらぬこととは止めさせん

○

紙上篤名は自由なれども今後篤名なき稿は載録しません(一係り)

北支皇軍の戦線より

土屋衛次

滿洲支那を中心とする事變戦闘の渦巻は...

拜啓 長らく御無沙汰に打過ぎ誠に...

去る四月の下旬、内地ならば...

錦洲に至る二百八十餘里を走...

錦洲にては相當に良き見學も...

いやが上にもあほり立てられ...

半迄に出動の命を受け旅荷を...

幽邃の感又一層に増えたる...

右に長城の偉を背し、左に遙...

今丈餘の砂塵をあげて一路追...

程にて候。鮮血四邊の青草を...

撫寧城の西北角に血痕新しく...

湯の瀨の湯と 黒瀨の淵

昔美濃の國より信濃に入り東...

小町娘が名のわからない皮...

く者の一人増し二人増したち...

撫寧城の西北角に血痕新しく...

湯の瀨の湯と 黒瀨の淵

昔美濃の國より信濃に入り東...

小町娘が名のわからない皮...

日は終日の行軍前進にて永平...

撫寧城の西北角に血痕新しく...

湯の瀨の湯と 黒瀨の淵

昔美濃の國より信濃に入り東...

小町娘が名のわからない皮...

ふためきたる狼狼のあとなど...

撫寧城の西北角に血痕新しく...

湯の瀨の湯と 黒瀨の淵

昔美濃の國より信濃に入り東...

小町娘が名のわからない皮...

喜ぶも果かないこの心痛に...

撫寧城の西北角に血痕新しく...

湯の瀨の湯と 黒瀨の淵

昔美濃の國より信濃に入り東...

小町娘が名のわからない皮...